



竹のオブジェ
職員手作りの
パンパーランタン？
見てみたかった



サファリゾーン
アドベンチャーで
すぐく管理がたい
へんなゾーン、と
いう印象。
トロッコ電車の係員
がとっても優しい



永明
お気に入りの笹に
身を沈めて・・・
運気が開いてく
るような？
奇跡のファミリー
ストーリーの
立役者ですね。



この笑顔
ウマたちとの
一体感がガンガン
伝わってくる



土と水と木と・・・
放飼場はすべて土。仲間と
すごせる、幸せな時間



メインゲート
ここから思い出
作りが、もう
始まっている



**四国へつながる
海が臨める**
イルカたちにも
もしかしたら
見えている！？



ZooでありAquariumでもある・・・

不思議な感覚でした。「海の生き物」は水族館で、「陸の生き物」は動物園で・・・が半ば常識のように受け止められていると思いますが、動物の種類・数・さまざまな「人と動物の距離の近さ演出」において、どれだけの努力がなされているのだろうと本当に関心しました。時代を先取りしている・・・直感的にそう思いましたし、バランスの上でも絶妙です。



印象は、「熱くて爽やか」

熱くて、爽やか、という印象について述べると、「熱さ」は、「この動物園を愛している」という職員のみなさんの情熱を意味しています。「爽やかさ」は、みなさんから願出される「来園者ファースト」的な笑顔に代表されます。熱さと爽やかさが両立できるのは、「こんなアドベンチャーワールドにしたい」という思いが各自にあふれていて、安住しない、もっとこんなところを変えたいという気持ちがあるからなのだと思います。自分がその所属する組織において大切にされているという感覚と、自分もその組織内でもっと努力したいという気持ちは相乗的な関係にあると思います。園内に保育園があるという動物園はもしかすると世界でも珍しいと思います。来園者が連れてくる幼児を一時的に預かって、兄弟や両親が学習に参加できるように手を助けるような動物園はあるかもしれませんが、職員の職場復帰を助ける意図で作られた保育園は非常に珍しく、その点だけを見ても、職員を大事にしていることがわかります。



「楽しさ」の基礎

来園者が、一日中、このワールドで楽しくそして有意義な時間を過ごす上で、「トイレ」「ショップ」「過ごせる空間」「ひと休みできるカフェ」「レストラン」等の整備はとても大事で、かつ、生き物の魅力を感じてもらうには、生き物の世界に誘う「案内人」の存在がキーですが、年齢もさまざまな来園者に対して、何かに特化してしまうより、あちらこちらにこれらの施設が分散していることが大切に思います。その点でも、一方で、ジャイアントパンダの一大繁殖センターをもちつつ、ホースライドやホースショー、わんちゃんとのふれあいなど、入り口がたくさんあることで、どんな人にも楽しい空間になっていたと感じました。



まさに箱船・・・動物たちの若

つい先日、大阪のみさき公園開園に伴い、行き場なくなった動物たちをアドベンチャーワールドさんが引き取るというニュースを目にしました。大半の動物たちを事実上「引き取る」という決断。本当に頭が下がります。しかも、動物たちにとってどのような生活を提供できるかは、当座、すべての職員のまずは手作業的なところにかかるとは思います。施設設備を整えるにしても、動物収容施設ではなく、動物飼育施設を整えるわけですから、いろいろ予想される問題を乗り越えるという気持ちが必要になります。どの動物にとっても、移送距離が短ければ短いほど負担は減るわけで、その点だけでもアドベンチャーワールドさんのこの申し出により、市民のみなさんも安堵しているのではないかと思います。心から応援したいと思います。みさき公園のファンのかたもきっとたくさん来てくださる事でしょう。

職場環境はすべての始まり

中尾様にご案内いただき、まずはじめに、事務室のしつらえに驚きました。ここで、誰が、何をしているのか、職員が「ひとつ」になって初めてアドベンチャーワールドという世界を創り出しているのだと、実感しました。多くの動物園では、管理部門と飼育部門は部屋も分かれているし、一日に一度も全体で集まることのない職場もあっさりします。「わたしは動物のことを考えればよい。僕は園内施設の安全のことだけかが得ればよい」・・・それは「どうしたら最高の笑顔を生み出すことができるか」ということにはつながりにくいのです。そして、栄養を考えたメニューのならば職員専用レストラン・・・本当に、時代を先取りしている印象です。職員が「仕事にやりがいを感じることをベースに職場環境を整えていく、それを実践していることに、深く感銘いたしました。



複雑な動線の克服

立地条件にあわせて、いくつもの建物立体的に工夫された連結によって構成されているのを見て、動物飼育担当者は、けっこう、動線で苦労しているのではないかと思います。いわゆる「柵式」な作りであれば、どこからいかわる「表」であるかがわかりやすく、その裏側同士は一連の作業通路でつながっているからです。とはいえ、動物の搬入搬出や作業車の動線をうまく隠しながら、来園者の楽しい体験の演出をしていくスキルが高いと感銘いたしました。とくに「パレード」など動物たちが来園者通路を共有しながらのアトラクションは、相当な準備が必要だったろうと推察します。

眺めつつ浸ることのできる演出

サファリゾーンはもともとサバンナイメージでつくられたのでしょいか・・・その中に、マレーバクやトラなど、森林・湿地を好む動物がいるため、木陰や植物が不足しているように思いました。真夏はまた別な場所が用意されているのかもしれませんが、それでも、デッキから見渡したり給餌体験ができる場所があったり、園内を探索できるジープやトロッコがあるなど、家族での来園者には選べる手段があり、とても得がたい体験ができる場だと思います。加えて、なぜそういう動物がここに集められているか、という話があると、興行きが出るように思います。つまり、動物に接近したり眺める楽しみを待てる、ということの前に、なぜここにこれだけの野生動物たちが暮らしているのかについて理解されたいと思いました。



Breeding Centerの位置づけ

アドベンチャーワールドの代名詞とも言える「ジャイアントパンダ」フリーディングセンターを支える仕事は、動物園を目指す者にとって、たいへん憧れの「夢」のような仕事でしょう。しかし、すでに軌道に乗ったかにも見える繁殖も、相当な努力と愛情と覚悟の上で成功してきたのだと、「ファミリーヒストリー」で知ることができました。ひとつひとつのドラマは、奇跡の展開のように見えますが、実は強い意志・決断のもとに信頼しあう連携があったからだと思えます。それらの信頼と連携も、職場全体で支え合う気持ちがあれば成り立たないと思います。そして、パンダたちがそれぞれ背景とされている野生由来の祖先がいることを知りました。そして、野生復帰への確実な歩みを支えているアドベンチャーワールドの役割も知りました。こうした事実はこのセンターでこそ、届けることができると思います。願わくは、保全センターという柱のもとに、ワールド全体がまともによりもって活動していけるように・・・！



熱くて爽やか

アドベンチャーワールドの
思い出・・・
帝京科学大学 (2020年1月18日)



エンペラーペンギンの幼鳥
長崎ペンギン館もびっくり！

15.7 kg

ペンギンのパレード
え？ 雪が！？

